
メルアの逆襲

ポン太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メルニアの逆襲

【著者名】

ポン太

N6887B

【あらすじ】

ギャクです。なんだか無性に書きたくなったので、いつも通り強引でまとまりがないのは我慢してください

「ふふふ・・・ハッピーブツチングプリンの恨みはいらでおくべきか
～です」

昼休み

「昨日は楽しかったですね～」

お昼を食べ終わってまつたりしている俺にメルアがにっこりで話
し掛けてくる

「メルアがそう思つたんなら付き合つたかいがあつたな」
昨日はメルアが楽しみにしていた『ハッピーブツチングプリン』を黙
つて平らげてしまつた償いに前から行きたがっていた温水プールに
付き合つたのだ

「なになに？私たちが出掛ける間一人で何してたの～」
そう、カティアとテニアは朝から用があつたらしく一人で出掛け
ていた

帰つてくるのも俺らよりも遅かつたな

「ひ・み・つ、です。ね～」

なんだか意味ありげなウインク一つ

瞬間。ぶわっ！！！

教室中にどす黒いオーラが広がる

(なんだ？なにがあつたんだ？)

(あいつにはカティアちゃんが居るのに)

(二股か！？二股なのか！？)

「い、いや別に他意があつて二人つて訳じや・・・ほり、お前、らい
なかつ」

俺の本能が激しく警報を鳴らしている

ヤバイ、激しくヤバイ

ちゃんと説明を・・・

「 統夜さんつたら私が不慣れなの判つてて・・・手取り足取り優しく・・・ 」

メルアさん? ナゼニカオヲアカラメテチヨツピリハズカシソウニイ
ウノデスカ?

いやね、泳ぎを教えただけですよ? やましい事は何もありませんよ
? 僕はカティア一筋だもん

そうだカティア、カティアだ!

俺の女神様がこの窮地を救つてくれるに違いない!!!!

俺が期待の目を向けた先には・・・

「 統夜? 詳しく話を聞かせてもらいましょうか? 」

誰よりも黒いオーラを見に纏いにつこり微笑む女神様がいた

「 カティア、そのハンマーは・・・ 」

「 ゴルディのお子さんらしいですよ 」

「 あ~その、なんだ、子どもを鈍器にするのはどうかと思つぞ? 」

「 いやですね、統夜は。鈍器なんかなりませんよ 」

「 あ、やつぱり? 」

言つが早いが俺は立ち上がるのもそこそこに椅子を引きずる様にバクステをする

さつきまで俺が居た所に振り降ろされたハンマーはお父さんと同様に俺の机と私物を光の粒子に変換した

シャレになつてない。反応遅れてたら俺も光になつてたぞ

「 さあ統夜? 聞かせてもらいましょうか? 」

ジヤカツとゴルディオン” プチ” ハンマーを構えるカティア

「 メ、メル・・・ 」

誤解の張本人は・・・プリン食つてました

あふれる光に押し出されるようにして教室を飛び出す

「 ちくしょー!!!! 」

殺される。このままでは不条理に殺される

とりあえず逃げ回つてカティアの頭が冷えるのを待つて

ダンツ！

「そこまでだ、紫雲」

足元に穿たれた弾痕

ゆっくりと視線を上げた先にはウルズフのゴールサインを持つ凄腕

傭兵

「グリニャールから頼まれてな。”どんな事をしても捕獲しろ”だ
そうだ」

「お前は戦友を売るのか？」

「グリニャールも戦友だ。それはともかく、お前は事の顛末を詳しく話す義務があると思うが」

「…………」

いやだ。いや、話すのは全くかまわんつーか話したいけど……
全てを無に還すような物かざされて落ち着いて話せるか！

「……へえ、言えないような事してたんですか」

隣の壁が無に還る

光の中から現れたカティアはそれはそれは美しく本当に女神のよう
で

「うおっ！？」

横一文字になぎ払われたハンマーをしゃがんでかわす

そのままの流れでバクステし、着地時にきびすを返して全力疾走

「みんな！捕まえて！！」

カティアの声で男子生徒たちが行く手を遮る

「くそっ！？」

迷う事一秒

教室のドアに体当たりするように飛び込む

「はあはあはあ、くそっ、このままでは……」「誤解……とき
ましようか？」

紙パックジュースをちゅーちゅーしながら何故か居るメルア

ここは・・・あ、俺の教室か

「早くしてくれ！俺が死なないうちに……！」

足音が近づいてくる

このままでは・・・

「うーん、私ハッピーブッヂンプリンお腹一杯食べたいんですね

」

「あーもー食わせてやる。食わせてやるからー」この世に自分の命より大切な物があらうか?いや、ない!

「交渉成立、ですね。それではいってきます」誤解の根源である少女はご機嫌でカティアを止めに行つた

これで俺の命の危機は去った訳だが・・・

帰りにハッピーブッヂンプリン1ケース買って帰る羽目になつた

俺何も悪くないよな?

どっちかというと被害者だよな?な?

「ふふふ、ハッピーブッヂンプリンの恨み見たかーです」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6887b/>

メルアの逆襲

2010年10月29日01時49分発行